

一般事業報告書

第7ブロック代表 キヤサリン・コバックス
第5ブロック代表 アバリン・ベア
第8ブロック代表 ビクトリア・マーフィー
PSG 代表 エミリ・コリンズ

はじめに

各県の AJET 支部と AJET 特別利益団体 (SIG) の活動を報告するとともに、この一般活動報告は進行中の企画、新しい事業、そしてこれからの AJET の方針について述べる。今後の AJET のあり方や活動について質問や意見を歓迎するなか、特に AJET が JET プログラムの推進に向けて JET 参加者に提供しているサービスの改善についてのコメントを期待している。

AJET・アラウンド・ジャパン

AJET 賞

全国 AJET は毎年、各県支部や個人の地元地域への貢献を認めるべく、AJET 賞を設けている。2010年の受賞者は下記の通りである。

AJET 支部賞： 奈良 AJET

JET 参加者と日本人参加者を常に引き付ける企画を実施するとともに、奈良県の留学生への奨学金の援助等を含む奉仕活動もしている。

最優秀チャリティー企画賞：

長野 AJET 感謝祭タレント・オークション

18,000 円の募金を世界食糧計画(WFP)に寄付した。

熊本 AJET チャリティー・ディナー

ハイチ出身の講演者を招待、キスケヤ・インターナショナル会 (ハイチの発展と人権援助をする団体) のために 213,000 円を集金し、寄付した。

最優秀スポーツ企画賞：

兵庫 AJET の但馬フリスビー大会

スポーツと国際交流を共に楽しく促進できる雰囲気を作りあげた。

最優秀オンライン情報源賞：

広島 AJET の *Wide Island View*

日本文化・トラベル・日本語学などを含む、JET 参加者が関心のある内容が豊富な情報網である。<http://wideislandview.com>

最優秀広報誌：

長崎県のナガザッシ (長雑誌)

情報に富んでおり、デザイン性の高い作品。県内各地で無料で入手できる他、オンライン版も出版されている。

最優秀都道府県連携企画賞：

奈良 AJET・三重 AJET 共同主催仮装舞踏会
マルディ・グラをテーマに、100 人以上の JET 参加者が集まり、ハイチ地震の被災者のために 62,600 円の募金を集めた。

最優秀特別利益団体 (SIG) 賞：

スマイル・キッズ・ジャパン
全国の孤児院訪問企画の拡大を図り、活動を進めた。

国際化賞：島根留学奨学金

留学希望者 4 人の奨学金を授与した他、生徒の英文集を援助・出版した。

AJET 職員賞：

<i>Lauren Wetherington</i>	ローレン・ウエザリントン
<i>Dawn Adams</i>	ドン・アダムズ
<i>Jonathon Ealey</i>	ジョナサン・イーリー
<i>Jooree Ahn</i>	ジューリー・アン
<i>Byrony Dunlop</i>	バイロニ・ダンロプ
<i>Jen Park</i>	ジェン・パーク
<i>Adam Tsai</i>	アダム・チャイ
<i>Natalee Oslen</i>	ナタリー・オルソン
<i>Jesse Welty</i>	ジェシー・ウェルティ
<i>Tonya Kneff</i>	トニャ・ネフ
<i>Rebecca Carrington</i>	レベッカ・カーリントン
<i>Ryan Bedford</i>	ライアン・ベッドフォード
<i>Samantha Scupp</i>	サマンサー・スカップ
<i>Kevin Mitchell</i>	ケビン・ミチエル
<i>Daniel Patterson</i>	ダニエル・パタソン
<i>Justin Elavathil</i>	ジャスティン・エラヴァティル
<i>Andrew Heffernan</i>	アンドリュー・ヘファナン
<i>Pooja Dadhania</i>	プジャ・ダダニア
<i>Carol Holland</i>	キャロル・ホランド
<i>Mark Griffiths</i>	マーク・グリフィス

各県支部のハイライト

各県の AJET 支部は毎年、文化・娯楽・チャリティー・そして教育を目的としたイベントを企画している。下記はそんな事業の中のいくつかの代表的な活動である。

HAJET ミュージカル（北海道）

4月3日・10日・17日、毎年恒例のミュージカルを開催し、「北海道英語・チャレンジ」のために27,000円集金した。「アラジン」に基づいた演技を披露し、ショーの殆どは英語で行われたが、来客の方が楽しめるよう日本語の歌・解説・ナレーションをも取り入れた。

シー・トゥー・ザ・サミット（静岡）

JET 参加者リントン・ラスゲンとジョー・ポルノヴィンは海からの富士登山イベントを企画し、オクスファム日本へ10,000円寄付した。イベントはジャパントゥタイムズにの記事に取り上げられた。

(<http://search.japantimes.co.jp/cgi-bin/nn20100805f1.html>)

T. R. A. M（富山）

JET 参加者と地域の住民のコミュニティー作りを簡単にするため富山県支部は T. R. A. M というホームページを作った。毎月ニュースレターがあり、誰でもサイトに投稿できる形式である。

(<http://toyama.press.ajet.net/tram/category/october-2010/>)

ホスト・ファミリー・プログラム（福井）

今毎年人気のあるホスト・ファミリーのマッチングプログラムは今年参加者数の新記録を達成した。地元の家族と1年目のJET参加者のペアリングを行うプログラムで、3つの大きなイベントを開催する中、多くの参加者は週に1度の頻度で受け入れ家庭と会っている。

ハイチ救援（高知）

ハイチの被災者を援助するため、チャリティーイベントを2つ開催した。一つ目は「オープン・マイク・オープン・ハーツ」という企画で、50人が参加し、131,400円を集めた。二つ目は「高知から、ハイチへ」というコンサート兼バザーであり、1000人以上が来場し、596,686円を集めた。

ビーチ清浄（徳島）

鳴門、島田島のビーチを綺麗にするため企画されたビーチ清浄作業は2010年5月からJET参加者と地域の人々によって行われている。実は、一人のJET参加者が空いた時間を利用してこの作業に取り組み始めたのがこの活動の切欠である。今では口コミ、報道媒体、そしてインターネットを介し、毎回30~60人集まるようになった。

広島 Carp 試合観戦（第9管区）

6月5日に、広島・山口・島根・鳥取各県から JET 参加者が 90 人以上広島市に集まり、野球の試合を観戦した。多くの参加者にとっては初めての日本の野球試合で、中にも人生初の生の野球試合だった！参加した誰もが楽しい時間を過ごした。

鹿屋国際デイ（鹿児島）

10月17日に鹿屋市国際交流協会が国際デイを開催した。鹿屋市配属の CIR ネイサン・バスチンが主催者を務め、JET 参加者が祖国のゲーム・料理・音楽・伝統衣装を紹介した。多文化ワークショップ、ワールド・レストラン、国際ファッション・ショー、ワールド・コンサート等と様々なイベントが開かれた。

SIG - 特別利益団体

SIG は JET 参加者が共通の興味・趣味・アイデンティティーを持つ他の参加者と一緒に楽しめるサークルのような団体である。SIG は電子メールやニュースレター、イベントやワークショップを使用している。残念なことに、毎年帰国する JET 参加者が多いため、SIG のリーダーがいなくなることが多く、来日直後の東京オリエンテーションの時点で AJET は積極的に新しいリーダーを探していた。その結果、新しいリーダーが見つかり、SIG 活動は復活した。

新しいリーダーが着任したグループは下記のとおりである：

- アニメ・漫画
- 人類学
- 仏教とその他の日本宗教
- チカノ・ラテン系
- ベジタリアン

多くの SIG は JET 参加者だけでなく地元の日本人参加者の増加を目指している。

そしてこの度、新しい SIG を二つ設けることができた。文を書くのが好きな人向けの作者 SIG は日本の作家と JET 参加者が関わる機会作りを目指しており、リーダーは編集と作文の経験に富んでいる。

二つ目の新しい SIG はイスラム教徒のための団体である。イスラム教徒向けのグループは初めてであり、リーダーは在日イスラム教徒が抱える問題やイスラムの伝統について地域の人々と JET 参加者の意識を高めることを目的にしている。

最近、活動を新たに4県に広げ、年末までに全国の半数の県への活動進出を図っているスマイルキッズジャパンがジャパントイムズ紙に取材された。

<http://search.japantimes.co.jp/cgi-bin/fl20100925a1.html>

JET 効果

JET 効果は今後、音楽を中心に国際交流を図る愛知県富山村配属の2年目のALT、ジョーダン・パトリックと密接に取り組む予定である。日本に着いて以来、自分の村に貢献するためにプロジェクトを始めたいと思っていたパトリックは夏休みの空き時間を利用し、村の名前をタイトルに1月に自作のCDを発売する。AJETは宣伝とPR面でパトリックを支援し、12月のJET効果に彼の記事に加え、演奏のビデオを載せることを決めた。資金援助については現在検討中である。

全国AJET事業

全国AJET役員

全国AJETは最近、空席だった役員職の候補を募集し、他の役員の投票により新しい代表者を任命した。第3管区代表は埼玉県のDenise Schlickberndに決まり、第4管区代表は千葉県のエリカ・ナカニシ-スタニスに決定した。

AJETピアサポートグループ

ピアサポートグループ (PSG) は、悩みを聞いたり各種紹介サービスをJETプログラム加入者に提供したりしているグループである。

このサービスは、ナショナルコーディネーター (NC) であるEmily Collinsを筆頭に、ボランティアコーディネーター (VC) であるKieran Murphyが、22人のボランティアの日程を調整したり、PSG幹部として他の支援を提供している。

このサービスは1年間休みなく、午後8時から翌日7時までの間行っている。

電話の量の統計

	2009	2010
4月	--	10
5月	--	7
6月	2	2
7月	9	7
8月	19	29
9月	9	12
6ヶ月の合計	--	67

多くのJETの参加者が夏の間日本に移り、日本での生活や、仕事を始めるため支援が必要となる。そのため、この期間にPSGに電話をかけるJET参加者は通常より多い。しかし、2010年の8月は前年に比べ特に相談をうけることが多かった。理由は定かではないが、これまでにPSGが東京でオリエンテーションを開き、その存在がJET参加者に浸透してきているからだと思われる。その上、2009年の夏季からPSGNCはJETのPAと電子メールやPA会議で通信しているため、このような情報公開によってPSGを知っているJETが全国中に増えた。

PSG は夜間によく使われている。サービスの利用の増加と限らずに、PSG は JET のコミュニティに役立ち、JET の参加者のために信頼できるプロの職業上のサポートを提供する約束を守っている。

PSG-CLAIR-PA の関係

PSG と PA の関係が続いている中で、これまで東京で行われている年 2 回の PA 会議には PSG の NC と VC が CLAIR から誘われるのが決まりであった。PSG はこういった会議を設けてくれることにとても感謝している。

そして 2010 年 10 月に CLAIR は更に全 PSG メンバーも会議に参加するよう求めた。会議の参加者は PSG メンバー 22 人中 14 人の参加となった（1 NC, 1 VC、2 PA の PSG メンバー、他に 10 人のメンバーであった）。この会議は参加者にとって、いい勉強や経験となっただけでなく、PSG メンバーがついに顔と顔を合わせ実際に会えたチャンスに繋がった。この会議以外にこのようにメンバーが顔を合わせる機会はなかった。NC が PSG のボランティアからもらった会議についてのコメントは以下の通りである：

「以前の PSG トレーニングを再度確認するよい機会だった」
(Session: **Ethics, Referral, Confidentiality.**)

「忘れられない、有益な経験でした」 (Session: **Demo Role Plays.**)

「PSG に関する問題を討論し、顔を合わすことができとても良かったです。来年は PSG ボランティアが全員参加できることを望みます。」 (Session: **PSG Meeting.**)

「JET のサポートネットワークが献身的に会議に参加することは貴重な機会でした。私自身多くのことを学べ、以前の PSG トレーニングを強固たるものにし、結果として PSG コミュニティの関係を改善するものであったと思います。ありがとうございました。」 (2010 年 10 月の PA 会議の結論)

会議後に全 PSG メンバーは参加したゼミについて報告書を作成した。NC がこの報告書を編集し、貴重な参考資料として全 PSG メンバーに配布した。

PSG は CLAIR にこの機会を設けてもらったことにとても感謝している。このような関係を今度も継続したいと望んでいる。1 対 1 のトレーニングが与えた連帯感を促進することによって、PSG は確実に約束したハイレベルなサービスへ改善し、提供し続けることができるだろう。

予算

PSG は例年通りの予算で維持している。2009・10 年の PSG の経費の総額は 9 万 5714 円であった。前年は 10 万 8330 円であり、PSG が経費を 1 万 2616 円削減できた。

AJET オンライン

2010年はAJET オンラインの役割に大きな変化があった。AJET のホームページを元から作り直ただけでなく、AJET Press という新ウェブサイトを追加した。

AJET Press は各県の AJET や JET のオンライン雑誌からの話や記事のために配信される中心のツールとなった。その目的は、オンライン雑誌で代表される特定の県や市以外の JET 参加者と情報を共有するためだ。さらに、AJET Press は限られた地域の記事や話をもっと多くの人に公開するものである。このサイトは JET 参加者のために日本についての情報や日本の日常生活や日本にある行事についての情報源になることを願っている。

AJET プロファイルセンターと Tatami Timeshare をメインウェブサイトと統合し、もっと見やすくするために更新した。

全国 AJET 役員の掲示板は、役員がライブで話せるチャットプログラムを使用しているので JET プログラムの掲示板へ移動していない。このライブで行えるチャットプログラムは全国 AJET 役員が何年も使用し、役立ててきたので、今後も使い続けたいものである。

AJET のウェブマスターは CLAIR に迷惑メールの減少と CLAIR の掲示板をリニューアルのための“テーマ”を提供したいと考えている。しかし、それを行うには、掲示板の管理者の許可が必要であり、CLAIR の掲示板に PA の掲示板が存在するため、秘密保持契約が必要である。

東京オリエンテーション

新しい AJET メンバーに無料 Skype 通信を提供したり、ワークショップを催したり、Team Teaching のための道具を提供したり、また通常のサポートを与えているので、AJET は東京オリエンテーションにおいて重要な役割を担っている。新しい JET 参加者は、特に、無料の Skype で家族に無事に日本に着いたことを伝えることができることにとても感謝している。

多くの JET 参加者は、新しい JET 参加者が日本に来る前に全国 AJET への登録ができれば登録が簡単に行えて、AJET センターでの混雑が減らせるのではないかと指摘した。今年度は、各県の AJET と TOA、または東京に出発する前のオリエンテーションの JETAA 代表者へ、ネットで全国 AJET へ登録することを進めたいと考えている。

さらに、オリエンテーションの時に、JET 参加者の中には、より早く教材の提供について知りたいと願う人がいた。いくつかの JETAA グループはすでに出発前のオリエンテーションで、新しい JET 参加者に『Planet Eigo』『Foxy Phonics』『The Kanji Survival Guide』や他の AJET の出版物について知らせている。他の領事館や大使館にこの取り組みを広げたいと考えている。

今年、AJET は、2010年の春に出された AJET 報告書「JET 経験を最大限に活用するために」を基にした新しいワークショップを紹介した。この報告書は空き時間を使

って新しいプロジェクトを始める時に、JET 参加者がどのような問題に直面するのか、そして問題をどう解決していくかを検討した。このワークショップはとても好評であった。しかし、CLAIR の東京オリエンテーションのアンケートによると、JET メンバーがこれまでに行ってきたことより、どうやって新しいプロジェクトに取り組むかに焦点を当てるべきだと言う JET 参加者もいた。また、他のワークショップや AJET Information Fair とは異なった情報を望む声や、ワークショップの説明やタイトルをワークショップで実際に行う内容に一致したものにすべきだという意見もあった。このアンケートを基に、新しい JET 参加者に、彼らが直面するであろう問題の可能性と、その問題にどう対応すべきかを示唆し、基本的な仕事をこなすだけでなく自身の仕事に満足できるように奨励し、また、草の根の国際化を促進するためにこのワークショップを改善していきたい。

AJET は今後もワークショップを改善し続けたいと考えている。「JET プログラムの諸オリエンテーション」の報告書によると、東京オリエンテーションで必要とされているギャップを埋めることができるのであれば、我々は必要に応じてワークショップを調整できると考えている。

全国 AJET 出版物

JET 参加者を支援するため、全国 AJET は「プラネット英語」と「フォクシ・フォニックス」といった出版物を出している。「プラネット英語」は学習理論、英語ゲーム、活動などが収集されており、「フォクシ・フォニックス」は音声学に基づいた構造化ワークシートを含めており、フォニックスを使って単語の読み方を学ぶことが出来る。来日直後のオリエンテーションで上記の出版物のほかに、北海道と福島県 AJET による出版物も販売していたが、完売した北海道 AJET の「満腹の日本」を除き、全体的に今年の出版物数は去年の販売合計を上回った。

来日直後オリエンテーションにおける総売上高は 1,754,895 円であった。272 冊の「フォクシ・フォニックス」と 436 冊の「プラネット英語」が販売されたが、プラネット英語の初版は 324 冊が売れ、第 2 版プラネット英語は事前注文で 139 冊売れた。北海道 AJET が出版している「満腹の日本」を除き、北海道 AJET と福島県 AJET が制作した出版物は昨年と比較し、販売数が 70.0% も上昇した。全国 AJET の出版物は平均で、販売数が 17.0% 上った。

初版の「プラネット英語」は来日直後オリエンテーションで、完売した。そこで、第二版の「プラネット英語」の事前注文を受け取り始め、東京で行われた来日直後オリエンテーションが終了してから、第二版を注文した JET 参加者の配送先住所を電子メールで確認した。しかし、出版物を編集するボランティア団体の規模縮小により、完成予定日が延期になったため、編集チームは事前注文した JET 参加者に「プラネット英語」の第二版が届くまで、最新の編集進行状況を電子メールで知らせるほか、第一版のオンライン版（印刷禁止）やウェブサイトの情報を提供した。

JET s, Be Ambitious! JET よ、大志を抱け!

2010 年の春、「JET 経験を最大限に活用するために」のレポートで JET 参加者が自ら積極的に仕事に取り組むよう指導を進めるほか、教室や市役所以外にも契約団体や地域のコミュニティーといった広い範囲に JET 関係の企画の価値を知ってもらう
CLAIR-文部科学省- 外務省-総務省 意見交換会議 2010 年 12 月 13-14 日

ことの必要性について述べた。草の根国際化は JET プログラムの重要な一面であり、学校訪問や地域事業などの成功例を話し合うことによって JET 担当者が新たな企画を支持することを期待している。

この目標の促進に向けて AJET は日本人英語教員、教育委員会、そして他の日本人のために JET プログラムの内容や参加者の地域での活動に関する記事が和訳されたウェブサイトの成立を勧めたいと考えている。JET 効果に似て、主に記事しか載せず、日本語をメインとするサイト形式とする。これは例えば、生徒の保護者にとっても分かりやすい方式だと思われる。名前は多くの日本人になじみのある名前に近いもの (JETs, Be Ambitious!) などと、URL は <http://jba.ajet.net> のように簡単なアドレスが好ましい。

JET 後の人生

AJET は今後毎月のコラムで JET プログラムから卒業し、キャリアを極めて元参加者を取材したいと思っている。元 JET 参加者に就職活動の経験や現役 JET へのアドバイスを尋ねることで、JET 後の人生に向けての準備の参考になるだけでなく、JET での経験を更に活用する切欠になる事を望んでいる。AJET が提供するサービスの中でも情報発信は重視されており、JET 後の人生もその中で役に立つ情報源の一つになる事を期待している。

CLAIR-三省庁-AJET サービス賞

AJET 賞のほかにも、CLAIR と各省庁が共同主催する新しい表彰を 4 つ設けたいと思っている。AJET が推薦を集め、ある程度は審査をするが、受賞者は CLAIR と各省庁が最終候補から決める形を検討している。受賞カテゴリーは下記のとおり案が上がっている：

- 契約団体への多大な貢献 - 自治会国際化協会
- 学校・教員への多大な貢献 - 文部科学省
- 地域での目覚しい活躍 - 外務省
- 新人 JET への目覚しい支援 - 総務省

共同で実施することによって JET 参加者にとって賞の価値は上昇するほか、郡を抜けた活躍実績を持つ JET 参加者にとっては更なる報いとなるだろう。

全国 AJET の目標

自己評価調査の頻度を増やす

最新の自己評価調査 (2009 年の冬) はとても意義深い結果をもたらした。多くの JET が日本国内のイベントや観光情報、JET 後の就職についての情報や現在の仕事環境についてのアドバイスを求めていることがわかり、この結果は今年度の事業に大きな影響を与えた。国内の情報を提供するために管区別のイベントニュースを毎月のニュースレターに足し、AJET Press という新しいサイトを作ったほか、「JET 後の人生」のコラムは就職活動の基礎を重視することとなる。JET 効果を含め、より多くの職場に関するアドバイスを提供するために、どのように「JET 経験を最大限に活用するために」の調査結果を取り入れるかはまだ検討中である。

今後もこれらの点を改善し続けるほか、自己評価調査の頻度を増やすことによってJET参加者がAJETから何を求めているかを更に明確にしたいと思う。2011年の春の一般活動報告に添ってアンケートを実施することで新年度の全国AJETの目標を決定する際にJET参加者のニーズに合わせてプログラムを決めることを目指している。

AJET レポートの質の向上

クレアと各省庁との会議がAJETのもっとも大事な業務の一つであり、これからも会議の成果をさらに高めたいと思っている。

より効果的かつ統一した調査を作るために、調査の標準実施基準を最近設けた。レポートをさらに改善するにはより高い回答率が不可欠であるため、JETの人数に基づいて統計的に有意な結果を出すためにはこれから各レポートに345人以上の回答者を得ることに取り組まなければならない。

意見交換会議で約束することを実行する旨、努力している。また、電子ニュースレター、AJETのホームページ、Facebookのソーシャルネットワーキングサービス、管区代表などを通して会議の結果を徹底的に報告することにも力を注いでいる。これからもAJETの活動の透明性を高め、すべてのJET参加者がその情報を容易に手に入れられるよう努力し続ける。

そして、現在の一般活動報告が意見交換会議でもっと役立つように、実施方の見直しを検討している。今では6ヶ月ごとに同じような情報を繰り返しているが、各県のAJETの事業や全国AJETの企画の現状を報告するより、6ヶ月ごとに新たな課題や成果を反映して将来の目標を決めるためにこの一般活動報告を活かしたいと思っている。現在のレポートの作成基準を見直しながら、CLAIRと各省庁が重視している部分も取り入れていきたいと思っている。

全国AJET参加者の会とJETプログラムの広報

全国AJET参加者の会はJETプログラムを維持するための活動を広めたい。

「JETs, Be Ambitious」の活動を通じて情報を充実させ、他のキャンペーン方法もさらに探していく。

今年の「職場の環境整備」レポートには多くのJET参加者が自分の勤務先の将来について不安を感じ、JETプログラム全体の不確かな将来を心配している。勤め口の削減の可能性を心配している。JET参加者は一所懸命とりくんでいる職場での再任が保証されれば、JETプログラムに対してより強い意欲が持てると考えている人が多い。そうなれば、全国AJETの参加者は民間ALTやCIRより政府が後ろ盾となっているJETプログラムの参加者が独自の活動ができ、もっと多くの利点を有することだけでなく、JET参加者が自分の勤め口に不満を感じることなく、もっと積極的な活動に入って欲しいということである。

全国AJET参加者の会と教育

最近AJETの教育はあまり注目されていなかったが、今後数年間にわたって全国AJETはそれを改善していきたい。JALTとの関係を強くするため、新しい契約

を結んだが、AJETはその関係を使ってJET参加者にさまざまな教育の機会を提供したいと思う。

質問

東京オリエンテーション:

1. CLAIRと各省庁は東京オリエンテーションでのAJETの参加について何かご意見はありますか？改善すべき点や、来年に向けてのポイントなどは？
2. 東京オリエンテーションアシスタントを募集する案にAJETのワークショップのリストがありますが、そこに「JET経験を最大限に活用するために」という課題も含めたいのですが、可能でしょうか？他に変更点があれば、今年の願書に間に合わせるにはいつまで提出すれば宜しいでしょうか？

新事業:

1. CLAIRと各省庁で新しいJET賞を共同スポンサーすることは可能でしょうか？新しい表彰についてのご意見はありますか？実施に向けてどのような準備・作業が必要ですか？
2. 「JETs、Be Ambitious!」のサイトに関するコメントは何かありますか？こういった情報をどのようにアクセスしやすくできるのでしょうか？どのような内容が一番重要だと思いますか？

他:

1. 一般事業報告の最も重要な部分はどこですか？余り重要でないところは？欠けている情報はありますか？この分野についての一般事業報告は年に1度で充分でしょうか？
2. 他にAJETの事業やプログラムに関する質問やコメントはありますか？